第8波、ワクチンに思わぬ課題　「過密」の乳幼児、選択望む12歳超

2022.10.7 毎日新聞

今冬の新型コロナウイルスの感染「第8波」を想定し、ワクチン接種体制が整いつつある。厚生労働省の専門家会議は7日、乳幼児向けや、オミクロン株に対応したワクチンの接種開始を了承した。だが、住民の接種予約が低調な自治体もある。【村田拓也、原田啓之、下桐実雅子】

乳幼児―定期接種の合間見つけて

厚労省の予防接種・ワクチン分科会が了承したのは、新型コロナウイルスワクチンでこれまで接種対象外だった生後6カ月～4歳向けの米ファイザー社製。5歳以上と同様に、予防接種法で定める「努力義務」と位置づけた。自治体で24日以降、無料で接種が受けられるようになる。

従来株に対応したワクチンだが、海外での治験では、3回接種後にはオミクロン株に対する発症予防効果は7割を超えたという。

安全性については重大な懸念はないとしている。接種後に発熱や注射部位の痛みが出た子どもがいたが、ほとんどが軽症か中等症で、ワクチンを実際に打ったグループとプラセボ（偽薬）のグループで頻度に大きな差はなかった。

森内浩幸・長崎大教授（小児科学）は「医学的にわかっていることなどから総合的に判断すると、健康な子どももワクチン接種のメリットはデメリットに勝ると思う。また、5～11歳よりは重症化しやすい年齢なので、より必要だと言えるだろう」と指摘する。

森内教授によると、新型コロナを含めて感染症では、乳幼児は重症化リスクがあり、オミクロン株のように感染する子どもが増えれば、まれではあるが重症化する場合もある。「株が変異しても新型コロナワクチンには重症化を防ぐ効果が期待できる」と話す。

課題は、ただでさえ乳児期には各種予防接種のスケジュールが立て込むのに、オミクロン株に対する発症予防効果を得るには3回接種が必要なことだ。1回当たりの抗原量は、安全性を考慮して12歳以上用と比べ10分の1としている。治験では2回以下の接種では十分な免疫が得られなかった。

新型コロナのワクチンは、初回接種から3週間空けて2回目を接種、さらに8週間経過後に3回目接種となる。

他にも、0歳から1歳にかけては、同時に接種するものもあるが二十数本の定期接種ワクチンがある。厚労省は、新型コロナワクチンとの接種間隔について、季節性インフルエンザについては同時接種を可能とし、その他は前後2週間以上空けるよう求め「タイミングが来たものをしっかりと打ってほしい」とする。

森内教授は「定期接種のワクチンはどれも大事なもの。きちんと接種を受けてほしい」と呼び掛ける。新型コロナのワクチンを打つ場合には、合間を見つけてほしいと言う。

大切なことは、スケジュールも含めて保護者がかかりつけ医とよく相談し、納得した上で接種を受けることだという。「子どもに不安があると、ワクチンの成分とは関係なく、失神などを起こすことがある。子どもの健康状態や性格、家族の健康状況などを考えて判断してほしい」と話す。

12歳以上―BA.5希望、自治体は困惑

BA・5に対応した同社製ワクチンの接種開始も正式に了承された。接種は13日に始ま

る。対象は 12 歳以上で、3 回目以降の追加接種で用いる。

主な新型コロナワクチンのタイプ
（…… は今回決定）

	生後6カ月～4歳	5～11歳	12歳以上
従来株対応	24日開始		
BA.1対応（3回目以降）	—	—	
BA.5対応（3回目以降）	—	—	13日開始

※ファイザー社製の場合

厚労省は自治体に対し、約 4300 万回分を供給する配分計画を示している。既に約 3700 万回分の供給が決まっている BA・1 対応ワクチンと混在する。

厚労省はいずれも従来のワクチンを上回る重症化予防効果があると説明し、扱いに差を付けず、使用期限が早く来るものを優先して使うことを推奨する。ただ、住民がワクチンの種類を選べるようにするかどうかは自治体の判断に委ねる。

自治体の対応は分かれている。

「いつから BA・5 用のワクチンに切り替えるんですか」。東京都墨田区役所には、住民からの問い合わせが相次いでいる。

だが同区は切り替え時期をまだ決めていない。BA・5 対応は 10 月中旬以降、自治体への配送が始まる。一方、BA・1 対応ワクチンの在庫を使い切るには 10 月末までかかる可能性がある。

担当者は「BA・5 対応への切り替えが遅いと、区民が接種を先延ばしして接種率が下がりかねない」と懸念する。現在、接種の予約は半分程度しか埋まっていない。一方で「BA・1 対応の在庫を余らせて廃棄するわけにはいかない」と頭を抱えている。

BA・1 対応と BA・5 対応のどちらの接種を受けられるか、同区はワクチン接種の予約システムで接種会場ごとに明示するようにしたという。担当者は「接種したワクチンが希望と違うものだったら、苦情を受けるかもしれない。トラブル防止のためだ」と話す。

兵庫県尼崎市は 11 月から、集団接種会場と個別接種会場のいずれも BA・5 対応に切り替える方針だ。担当者は「10 月中は BA・5 対応ワクチンの配送量が少ないので、まとまった量が届いてから市内一斉に始めたい」と話す。